

柳河style

～小堀割のある暮らし～

訪れるだけでなく、住みたくなる柳河へ

柳川市
観光が中心

観光地以外の住
宅地への消極的
な意識

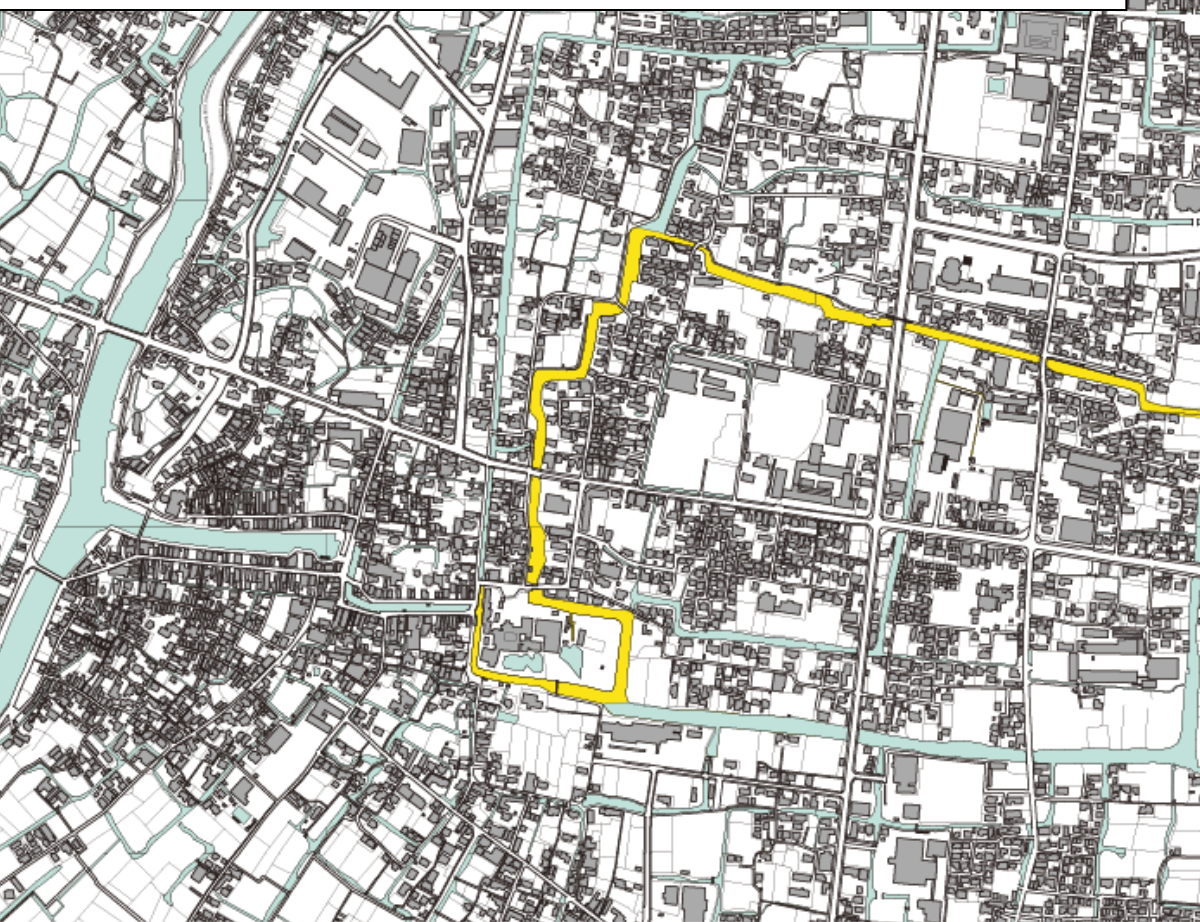
居住者のための
柳河式「堀割のあ
る生活」スタイル
の提供

堀割整備に対する
投資のかたより

堀割のある住民生活
が昔のことに。



- ・観光地として訪れる柳川の印象は川下りルート沿いの風景に限定されたように感じた。
- ・大きなお堀沿いの生活は本当の柳川の住まい方ではないのではないか。

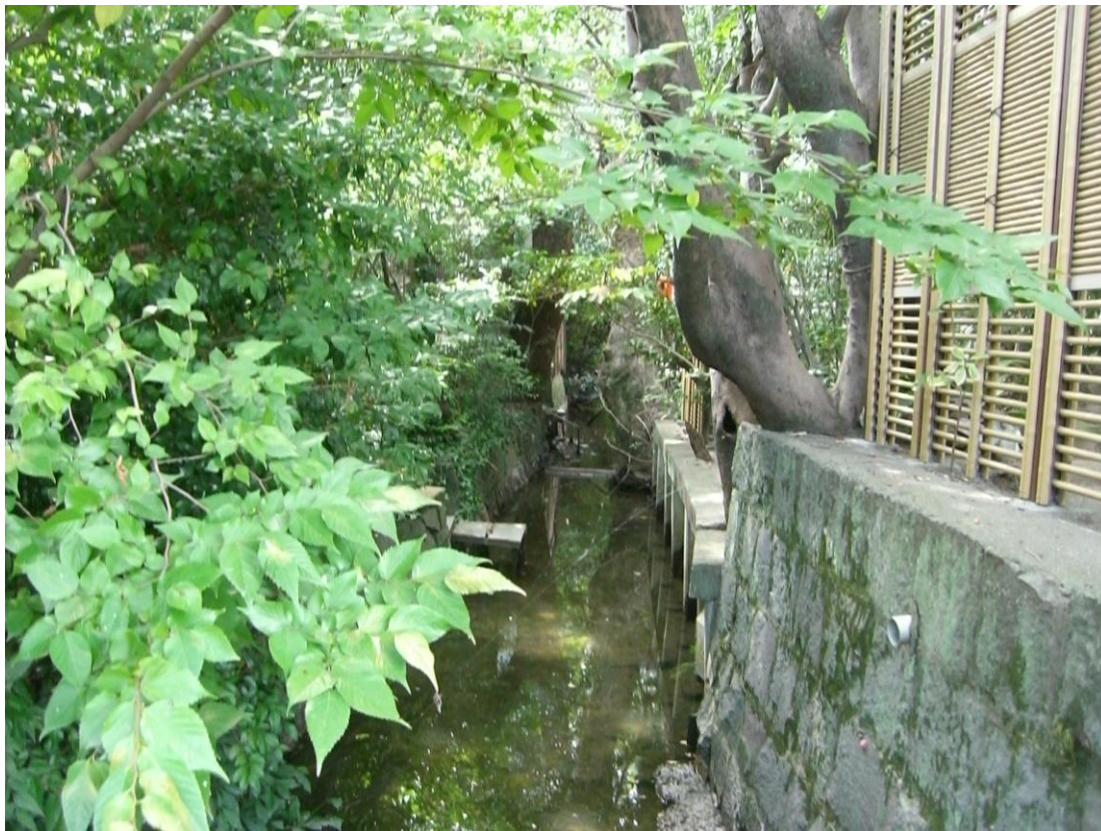


小さな堀割沿いの住まい

今は生活から切り離された小さなお堀たちであるが、
かつては柳川の住民にとって、もっとも身近な存在であった。



現在の生活においての堀と人間の関係のあり方を再構築する。



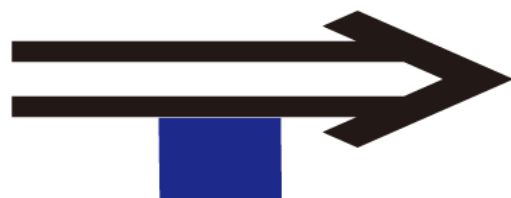
常盤町の現状

- ・細い堀には排水が流れている。
- ・堀は悪臭、蚊等の迷惑の根源
- ・過疎化・高齢化の進む地域
- ・敷地の細分化によってお堀と接していない住居も見受けられる。



現在の生活に対応する堀割とは

細い堀割の多く残る
柳河地区



『柳河らしい生活』
を再構築

現代版『堀割のある生活』を提案

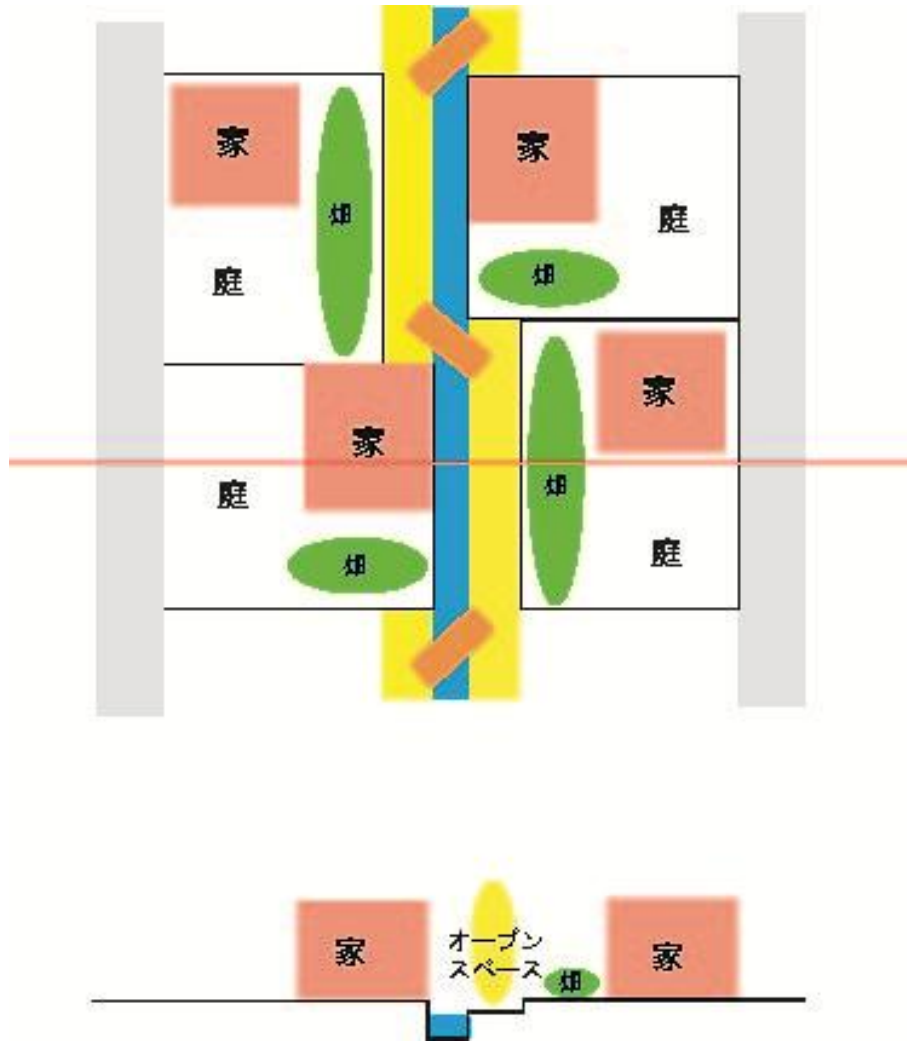
＜昔＞

[朝] 水汲み
[昼] 生活用水に利用
[夜] 庭で浄化して排水

＜現代版＞

[朝] 庭の家庭菜園や花壇に散水
[昼] 庭でとれた野菜を食べる
庭の花や鉢植えを楽しむ
堀割でのコミュニティ形成
[夜] 水辺で涼しく、寝床に着く

生活をお堀に近づけるために



コーポラティブハウスによるお堀の活用を考える。垣根がない平面の構成はお堀への自然な連続感を与える。

また平面を構成する要素は関係性がそれぞれ異なっている。居住者自身が選択権をもってお堀との付き合いを考える

堀割はだれのものか

現在：よごれて、だれのものでもない堀割



コーポラティブハウス+コレクティブハウスの考え方

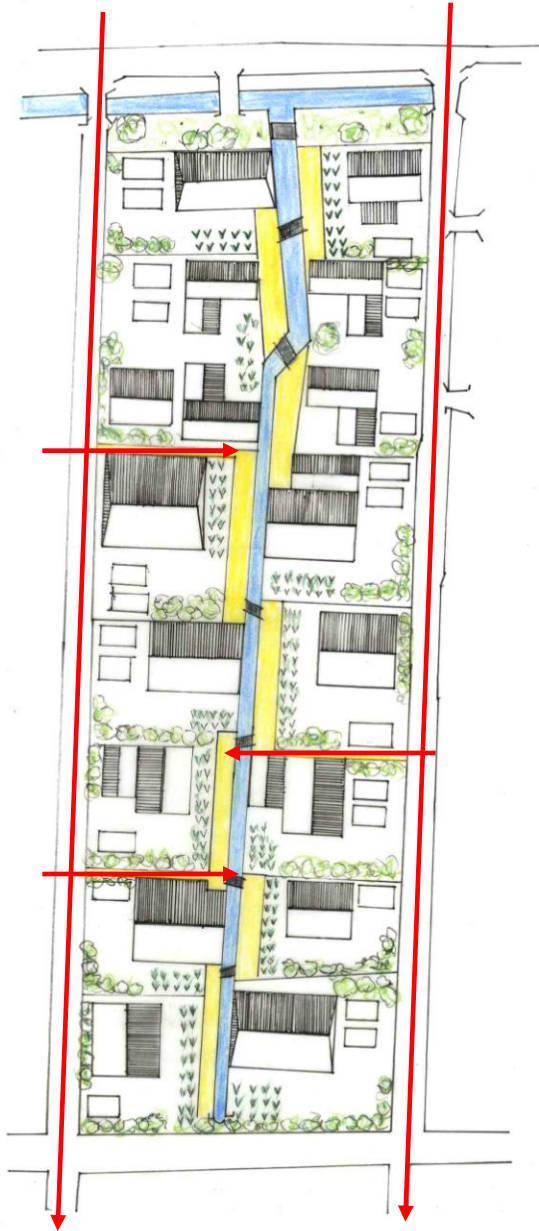


集まって堀沿いでの住まい方を考え、堀での時間と空間を共有する



堀割は自分のものであるという意識

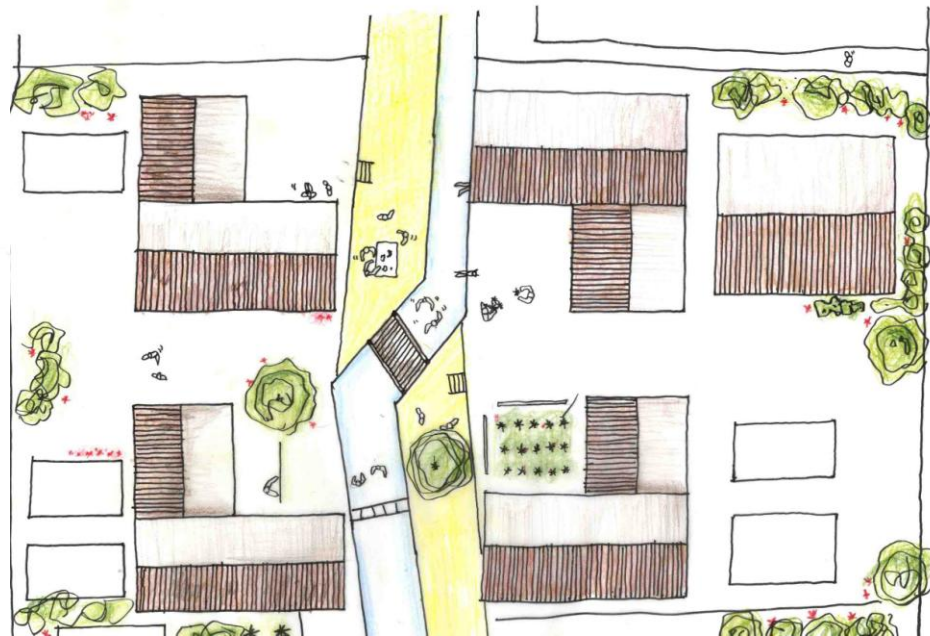
平面計画



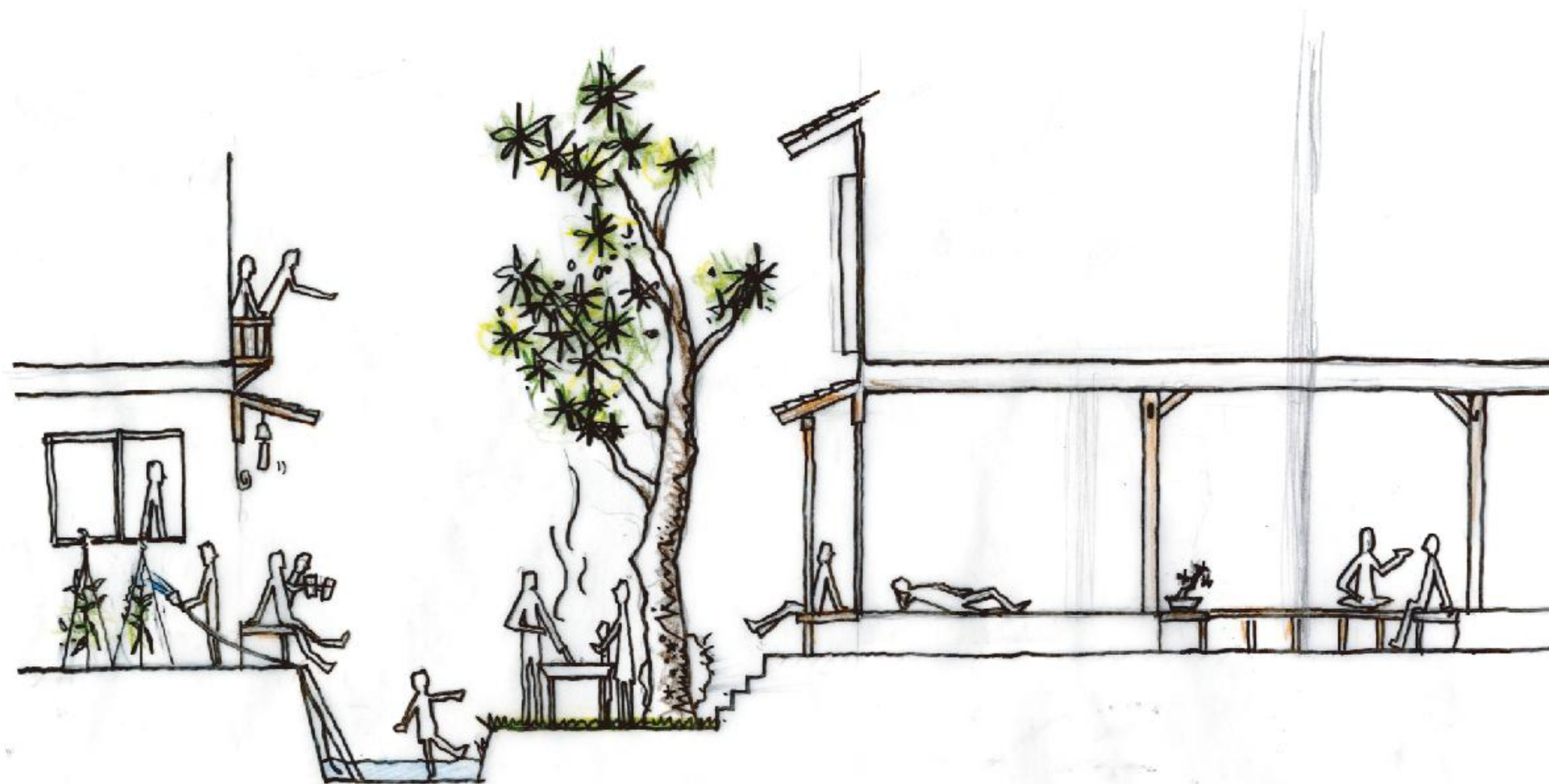
■ 堀割を中心としたコミュニティの形成

- 堀割に平行した道路ラインしかない
 - 堀割と既存の道路を結ぶ路地の形成
- 堀割に向けたオープンスペース
 - 各住戸が向かうことによってさまざまな活動や交流が期待できる
- 浄水に対する住民意識の向上
 - 下水道の整備

平面計画



お堀のある断面



縁側からお堀のある景色を眺めたり、時には足を入れてみたり。

お堀は子供たちが安心して遊べる遊び場へ。

共有のデッキではバーベキューができます。

せせらぎ、お堀の雰囲気を楽しみながらうたた寝。

少し距離を置いたところではゆっくりとしたそれぞれの時間。





